

ネルー

150781162 橋本優希

中村平治著書

清水書院

2014年発行

ネルーの生誕

生年月日：1889年11月14日

生誕場所：インド北部のウッタラープラデシュ州アラハバード

父：弁護士

兄弟：一人っ子

階級：特権階級、裕福

ネルー青年期

15歳→名門イギリスのハロー校留学

1907年～1910年→ケンブリッジのトリニティーカレッジに在学

大学の選考科目：教養学、社会科学、人文科学、自然科学

大学進学後→イギリス政治、インド政治に着眼

青年期を国外にて滞在：良い意味でインドを「第三者」的立ち位置から俯瞰

1905年～1907年にかけてのインド

ベンガル分割反対運動

- a) 主導者：インド総督カーゾン
- b) 派閥：インド国民会議派（ティクラ派）

ネルー

- a) ティクラ派
- b) 反対運動への参加、
留学の経験を経て民族主義思想へ

ネルーの生涯の師「ガンディー」

本名：マハートマ＝ガンディー

ガンディーの帰還

- a) 1915年にアフリカより帰還
- b) ティクラ派の活動に尽力

第一次サッチャーグラハ運動

- a) 1919年～
- b) 非暴力的な抵抗
 - ア) イギリスに対する不服従、不協力、ストライキ

「ガンディー」との出会い

ティクラ会議派大会

- a) 開催年：1916年
- b) 開催地：ラクナウー
- c) ネルーとガンディー初対面
 - ア) 二人は意気投合
 - イ) ネルーは生涯の師として尊敬

ティクラ派最大事件

インド撤退要求闘争

- a) 1942年8月大戦期
- b) イギリスがインドからただちに出ていくべきという方針を打診

イギリス

- a) 徹底抗戦
- b) ネルー、ガンディーなど中心人物を逮捕
→ティクラ派を非合法化

インド独立の流れ

インド制憲議会議員選挙

a) 1946年

ア) 同9月2日中間政府誕生

→ ティクラ派の最高指導者ネルー首班

1947年7月18日：インド独立法執行

→ イギリスの支配から脱出

8月15日：インド独立

ガンディーの暗殺

a) 1948年11月30日

b) ヒन्दゥー国家主義者により殺害

アジア・アフリカの良心ネルー

アジア・アフリカ会議

- a) 1955年4月
- b) インドネシアのバンドンで開催
- c) ネルーは10原則にのぼる決議を採択

10原則の決議の内容

- a) 植民地主義の廃止
- b) 民族独立
- c) 世界平和の確立 etc...

→民衆は現代アジア・アフリカの良心ネルーとして認識

ネルー老齡期

1960年代～

a) ネルー老齡化

→インドの国際社会での立場は後退
(政治的、社会的、経済的な行き詰まり)

しかし・・・

ネルーの偉業に対し国内問わず国外からも称賛
現在のインド

a) 中国を抜く成長率

b) サービス産業を中心に経済成長UP

ネルーの死

死亡日時：1964年5月10日

原因：心臓発作

年齢：享年75歳

ネルー没後

→ネルーの娘「インディラ＝ガンディー」がインドの第5代、8代首相に就任

→現代インドの誇り民族独立の立役者ネルーとして世界中に認識